

## <過去のお知らせ>

IT技術の活用で放送番組制作現場が変わる!  
「UMID解説書」及び「MXF規格の解説」頒布のお知らせ

近年のIT技術の進歩はめざましく、放送局のオペレーションにもその流れは少なからぬ影響を与えています。また、これまでテープなどの媒体や、シリアルデジタルインターフェースに代表されるストリーム形式で行われていた番組素材の交換も、ネットワークを介してファイル形式で行うことが可能となっており、将来、放送局のオペレーションがネットワークを中心にした形態に変わっていくことが想定されます。

当会のスタジオ設備開発部会では、そのために有用な技術と考えられるMXF\*<sup>1</sup> とUMID\*<sup>2</sup> を取り上げ、多くの方の理解の一助となるよう解説書としてまとめ、頒布しておりますのでお知らせします。

「UMID解説書」 頒価1,281円 好評頒布中

「MXF規格の解説」 頒価2,226円 好評頒布中

ご購入は [こちら](#) から。またFAX (03-3592-1103) かE-mail ([tosho@arib.or.jp](mailto:tosho@arib.or.jp)) でも受け付けております。

\*1 MXF (Material eXchange Format)

SMPTEにおいて規格化 (SMPTE-377M他) されている映像、音声、メタデータのファイル交換フォーマット。圧縮形式に依存しない互換性を意識したフォーマットであり、またデジタルインターフェースで伝送されるストリームのラッパーとなるよう定義されていることから、ストリームからファイルへの段階的な移行も考慮されている。

\*2 UMID (Unique Material IDentifier)

素材の識別子としてSMPTEにおいてSMPTE-330Mとして規格化されている。データベースや認証機関への登録など必要なく、素材が発生した時点で自動的にグローバルユニークに発生できるという特徴を持つ。また、素材収録日時、収録位置等を格納するメタデータとしての側面も持つ。